

春日井のため池⑪⑫

畦地洞池(明知町)

西尾イモジ下池(西尾町)

今回紹介するため池は、いわゆる「切添新田」(本百姓が所有する田畑の周辺に少しずつ切り開いたとされる新田)と呼ばれる田畑のための灌漑用ため池と考えられます。西尾・明知・神屋のあたりには、これら山地の谷間につくったため池がたくさんあるのです。

畦地洞池(明知町)

「あぜちぼら」と読みます。地名の方は、なぜか漢字で畦知洞と書きます。春日井市史には、かつて<畔知洞>と書いて「あけちぼら」と読んでいたこと、天保年間には<畔ちケ洞>と書いて「あけちがぼら」と読んでいたことが紹介されています。

国道19号の明知町北の交差点を北に入ると中央自動車道の小牧東インターに入る有料道路の料金所があります。その手前を左に曲がり、交差する用水沿いに上流に向かって細い道を入っていきます。きれいに作りこまれた田圃を右手に見ながら進んでいくと、突き当りにこの畦地洞池があります。山間のなかにあり、周りを山に囲まれている感じです。池そのものもそれほど大きいわけではないのですが、周りの木立と相まって独特の雰囲気を出しています。

所有者は春日井市で、農政課が管理しています。農政課の「ため池台帳」によれば、堤高3.0m、堤長45m、貯水量2千㎡、灌漑受益面積1.4haとなっています。

西尾イモジ下池(西尾町)

イモジ洞にあるため池のことで、現在はカタカナ表記ですが、『郷土史春日井』46号で小木曾正明氏は「鑄物師洞」と紹介しています。また、磯貝洋尚氏によれば、この鑄物師洞の表記が正しければ、火を扱う鍛冶屋・鑄物屋は、火災から村を守るために人家から離れた場所にその作業場を置いたことから、転じて「イモジ(洞)は「村外れの所」に在る(洞)を意味する地名用語」と推察しています(『川名の由来』)。

明知と西尾の境目に「日吉神社」があります。これはもともと明知村の氏神でした。しかし、西尾村には氏神がなく、古老の話では、西尾村が、この日吉神社を明知村と西尾村の共同の氏神にすることを依頼したそうです。社殿はそのままとし、参道を西尾側に設けること、このイモジ洞池の水利権を明知村に譲ることなどが決められたそうです。春日井市史のp220によると、寛文村々覚書(江戸時代の村勢調査)に「いもじや池」という名が明知町の雨池として掲載されているのはその表れでしょうか。



畦地洞池(明知町)



西尾イモジ下池(西尾町)



西尾イモジ上池(西尾町)

国道19号の明知北交差点を西尾側に通り過ぎ、左側の側道から北に入って内津川を越えて北側に上っていくと、このイモジ下池があります。こちらは山から若干離れているため、明るく開けた感じになっています。

所有者は個人3名ですが、管理はやはり農政課が行っています。前出「ため池台帳」によれば、堤高5.8m、堤長174m、貯水量2千㎡、灌漑受益面積4.7haです。

イモジ洞には、この下池より上手にもうひとつ「イモジ上池」もあります。こちらについては、またの機会に紹介したいと思います。

(春日井郷土史研究会 富中)